

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和4年(2022年)

6-7月号

(通巻 200号)

2022年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

クリ

クリの花は、穂になって伸びる雄花の集まりと、その根元にある雌花(円内)があります。雌花はいがの形です。

P1 ☀️ いきもの写真館
ク リ

P2 / 3 ☀️ おすすめ自然観察スポット
長田谷津と江戸川放水路
- 地形と環境 -

P4 ☀️ センサーカメラとっておきをご紹介
アナグマ

P5 ☀️ いちかわの植物 30年
オオバノトンボソウ
ハエドクソウ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
帰化植物といえば…

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
カタツムリの餌

P7 ☀️ わたしの観察ノート
3~4月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

おすすめ自然観察スポット

長田谷津と江戸川放水路

－ 地形と環境 －

長田谷津（大町公園自然観察園）は細長い谷地形で淡水の環境、江戸川放水路は平らな干潟で海水の環境です。見た目も、そこに暮らす生き物の種類も大きく異なりますが、自然を支える土台の部分では共通点があります。それは、水をためる「お皿地形」です。

地形と環境

長田谷津は、谷の地形です。梨畑が広がる平らな台地（標高25メートルほど）に細く切れ込んでいて、谷底は平らで標高12メートル前後です。台地から切れ込む斜面は急で、樹木が茂り「斜面林」を形成しています。谷底から全体を見ると、台形をさかさまにしたように見えます。

湧水が豊富で、谷底は湿った環境です。いまは大部分が埋まっていますが、谷底を掘ればすぐに水面が現れます。湧水の由来は台地に降った雨なので、水の性質は淡水です。谷底は、淡水をたっぷり含んだスポンジのような環境になっていて、淡水に暮らす魚やカエル、トンボなどが生息しています。



長田谷津の地形

平らな谷底と左右の斜面でさかさま台形

江戸川放水路は、平らな地形です。市川市南部の低地が東京湾の底に向けてなだらかに下っていく「すり鉢」のへりの一部（東京湾の海岸）です。土地に高低差はほとんどなく、わずかに堤防や橋が視界を遮るだけです。樹木もわずかな低木だけで、目につく植生はヨシ原しかありません。

東京湾の海岸なので、海水の環境です。潮の満ち干があり、つねに海水に浸かっている場所と、引き潮の時だけ陸地化する場所（干潟）、大潮の満潮の限られた時間だけ海水に触れる場所などに分かります。このうち干潟は、「海水をたっぷり含んだ陸地」という特殊な環境で、カニや魚、貝などが生息し、それらを餌とする渡り鳥が飛来することでも知られています。



江戸川放水路の地形

平らで、視界を遮るのは堤防と橋だけ。

お皿地形

地形も水の性質も大きく異なる2つの場所ですが、平らな部分（長田谷津の谷底と江戸川放水路の干潟）には驚くほど似ていることがあります。それは、生き物が多い場所にはうっすらと水がたまっているということです。薄い平皿に土を敷き、そこに水を張ったイメージです。仮に「お皿地形」と呼ぶことにします。

長田谷津では、お皿地形にたまった水にカエルが卵を産み、おたまじゃくしが泳ぎます。水生の昆虫や魚の子どもが生息し、もっと小さな生き物やミジンコ類も発生します。斜面から谷の中央にかけて傾斜がついた場所では水がたまらず、生息する生き物の種類は少なくなります。

江戸川放水路では、お皿地形の場所に無数のカニが巣穴を掘り、トビハゼが生息します。水たまりには巻き貝や魚の子どもが生息し、ヨシ原のなかにもカニが多く生息します。堤防から流れの中心に向けて傾斜がついた場所では水がたまらず、生息するカニは限られ、トビハゼも見られません。傾斜がついて水がたまらない場所は「まな板」を傾けたイメージです。



長田谷津のお皿地形

草を刈り取ったら、お皿地形が現れた。

お皿地形には原形があります。長田谷津の場合は水田、江戸川放水路なら塩田です。水田は浅く水をためて雑草の侵入を抑え、水温をあげて稲の成長を促します。かつての長田谷津は全面で稲作が行われていたから、谷底一面にお皿を敷き詰めた環境でした。塩田も、海水を引き込んでため、水分を蒸発させて塩をつくる場所です。江戸川放水路に塩田はありませんでしたが、大雨の時の放水の影響で干潟の前面に砂がたまり、その後背が平らなお皿地形になっています。かつて行徳に広がっていた塩田は、まさしく海岸にお皿を敷き詰めた地形です。塩田の跡地は、いい干潟になったと思われます。

水田も塩田も、人が作り維持していた環境です。つねに平らな地形を保っていただけでなく、水田であれば雑草を取り除き、塩田であれば流れ込む異物を取り除いていたでしょう。人が管理しなければ水田跡はヨシ原に、塩田跡はカキ礁へと遷移します。長田谷津も、かつて塩田があった東京湾岸も、生産の場でなくなった時点で管理されなくなります。ですが、生態系を保全するためには管理が必要です。



江戸川放水路のお皿地形

水面近くが盛り上がり、后背は平坦。



センサーカメラ とおきをご紹介

自然博物館では、長田谷津(大町公園自然観察園)の斜面林内にセンサーカメラ(自動撮影装置)を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



アナグマ

センサーカメラでは2019年2月下旬から撮影を始めましたが、アナグマが写ったのは2021年5月30日の1回だけです。そもそもアナグマがいると思っていませんでしたので驚きでした。調べると、1991年5月に動物園内での目撃記録がありました。このときの個体群が残っていたのでしょうか。あるいは、新たに外部から来たのでしょうか。直接観察も、してみたいです。

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

オオバノトンボソウ

ラン科の植物に特別な価値づけをすることは世界的な傾向ですが、日本の昭和時代はちょっと行き過ぎた感がありました。千葉県ではアワチドリがそうですが、なぜそこまで、というほど掘り取られ盗まれました。今の若い世代がそんなものに見向きもしないことに安堵し、好感を覚えます。

オオバノトンボソウは、頑張って探せば今も市川市内で見ることができる野生ランです。名前のとおり、花の形がトンボの飛んでいる姿に似ています。花色がピンクや紫色だったり、花に香りがあったら、きっと盗掘の対象になっていたでしょう。今年もまたオオバノトンボソウの花に出会えたことが、うれしいです。



オオバノトンボソウ(1986 年 7 月 19 日)
柏井町 2 丁目 花付きがいい株だった。

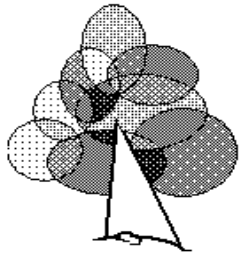
ハエドクソウ

ハエドクソウは、夏の薄暗い雑木林でひっそりと咲く野草です。根に殺虫成分が含まれ、名前の由来になっています。あまり注目されることのない野草ですが、じつは花の形はランに似ているし、花色も淡い紫色です。もっと人気があっても、と思います。

林の草刈りでは容赦なく刈られ、逆に常緑樹林化で暗くなり数が減っても気にされません。細長い花穂はちょっとの風で揺れるため、暗い林内ではシャッター速度が遅くなり、撮影がむずかしかった記憶があります。



ハエドクソウ(1986 年 7 月 24 日)
小塚山公園 清楚な印象を受けた。



帰化植物といえど…

5月29日は、気温30℃になりました。全国各地、夏日や猛暑日でした。5月は「夜中雨、あるいは昼間ときどき雨」の日が多かったように思いました。庭先のドクダミは、他の植物より抜きんでて、盛り上がるように花を咲かせています。ご近所のタイサンボク、ニシキウツギ、スイカズラも咲いています。空地や道路わきのチガヤは、綿毛を飛ばしています。この冬には、我が家の防犯砂利の上をツタバウンランが覆っていました。今年はいつの間にか入り込んだキキョウソウが玄関先で咲いています。ヒメツルソバや

ペラペラヨメナ(エリゲロン)、ナガミヒナゲシは住宅地では少なくなっています。かつて、帰化植物といえど、ヒメジョオン、ハルジオン、セイタカアワダチソウでしたが、今では、見かけても小さかったりまばらだったりします。久しぶりにツマグロヒョウモンを見かけました。ナミアゲハやアオスジアゲハも飛んでいます。よく通る道端にアメリカオニアザミが生えています。「車や自転車をよけて、トゲが刺さったりするかも…」と通るたびに、大きく張り出し成長するのを、遠巻きに眺めています。

(M. M.)

No.43

展示室 飼育生物の話題

カタツムリの餌

カタツムリの飼育展示は人気があります。自然観察園で捕れるミスジマイマイは町なかにいるオナジマイマイよりも大きいので、みなさん、まず大きさにびっくりします。そのつぎは餌です。ニンジン、キャベツ、卵の殻を与えますが、自分がふだん食べるものと同じなので、親近感がわくようです。小さな子どもでもそれとわかるように、ニンジンのごろっと、キャベツはぺらっと、卵の殻はぱかっと置いています。ニンジンとキャベツをセットで入れているのは、糞の色が変わるからです。ニンジンを食べれば糞はニンジン色、キャベツならキャベツ色になります。

卵や、産まれたばかりのミニミニカタツムリは目にする機会が少ないので、大人の方にも喜んでいただいております。





◆長田谷津より

- ・イヌコリヤナギの雄株を見つけました(3/15)。前にあった木を伐ってしまったので、改めて探していました。いつも歩いているところですが、ちょうど満開の時に通ったので気づきました。雄花はきれいなので、見やすい場所に出てくれてよかったです。
- ・大池（噴水池）のミツガシワがきれいです(4/8)。湧水が流れ込む場所なので、水温が低く、ミツガシワに適した環境になっているようです。平地で群落がみられる場所は、なかなかないかもしれません。

以上 金子謙一（自然博物館）

◆堀之内貝塚より

- ・アマナが咲きました(3/28)。今年は寒かったせいか開花が遅かったようです。昨年と同様付近にモンキチョウが飛んでいました。
- ・一週間前頃から日当たりのよい斜面に青紫色のホタルカズラが小群落で咲きそろいました(4/5)。

◆市内某所より

- ・いつもの所でシュンランが咲いていて安心しました(3/28)。株数が少なくなったように思え気になります。雑木林は手が入り明るくなりましたが、林道から入りやすくなり心配です。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

◆八幡より

- ・3月31日より、毎日5時からウグイスが鳴いています。
- ・本八幡駅南口のビルの上で、イソヒヨドリが鳴いていました(4/2)。

◆大柏川より

- ・大柏橋の北側で、ツバメ1羽を見ました(4/5)。

以上 M.M. さん

◆鬼高より

- ・金魚を飼っている小学校の池に、ヒキガエルの卵塊がありました(3/11)。前日にはなかったとのことなので、10日夜に産んだと思われます。実際、池にはまだ成体も残っていました。休み時間に見に来ていた子どもたちは、きのうの夕方に声を聞いた、とか、池がつながる側溝の中にも卵がある、とか、いろいろ教えてくれました。自分の発見を話すときの子どもの顔は、楽しそうです。

金子謙一

◆三番瀬より

- ・綺麗な夏羽のコオバシギがいると聞いて、船橋市と市川市にまたがる干潟、ふなばし三番瀬海浜公園に行ってきました(4/19)。コオバシギはすぐに見つかり、10羽ほどを見ることができました。春の渡りで東京湾にコオバシギが入ることは非常に珍しく、しかも群れで入るとは驚きました。最後に春の渡りでコオバシギを見たのは13年前なのでとても嬉しかったです。

稲村優一(自然博物館)

3月に入ると暖かい日が多くなりました。22日には雪が降りましたが積もりませんでした。4月は晴れると暑くなりましたが、好天が続かず、冷たい雨の日がありました。

自然博物館のwebサイト（ホームページ）を 調べ学習や事前学習にご活用ください

自然博物館のwebサイト（ホームページ）では、つぎのような素材（コンテンツ）をご用意しています。

○ オリジナル動画

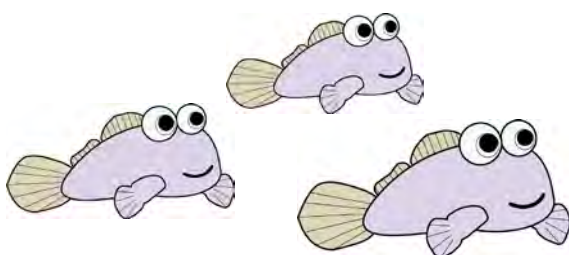
- ・ グリーンスクールで訪れる大町公園の自然観察園（長田谷津）について、毎月の風景や動植物を動画で紹介しています。
- ・ 同じく長田谷津について、タヌキやノウサギ、オオタカなど、一般の観察では見られない動物の生態を、センサーカメラで記録した動画で紹介しています。
- ・ 展示や、学校への出張授業で用いた教育普及用動画が見られ、順次増やしていきます。

○ 自然観察週報

自然博物館の学芸員の観察記録です。1998年からのデータを1年ごとにエクセルのファイルで提供しています。すべて市川市内の情報なので、子どもたちのタブレットにダウンロードして調べたい生き物を種名で絞り込んだり、長田谷津や江戸川放水路など場所で絞り込んだりすることができます。たとえば野鳥の「カシラダカ」で絞り込むと、長田谷津では2011年を最後に記録がありません。その原因をテーマに調べ学習を発展させるのもおもしろいと思います。

○ 自然博物館だより

自然博物館が隔月で発行している読み物です。市川市内の自然の話題を取り上げているほか、分類学や生態学の立場で自然や生き物を解説した記事もあります。最新号および創刊号までのバックナンバーをPDF形式のファイルで提供しています（ダウンロードできます。古い号は準備中です）。自然博物館が発行したものですから、書かれている内容についてお問い合わせいただくことも可能です。記事について子どもたちとメールでやりとりできれば楽しそうです。



第35巻 第2号（通巻第200号）

令和4年6月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477